

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10856

研究課題名(和文)更年期女性の不定愁訴及び行動特性の客観的評価とヘルスリテラシーとの関連

研究課題名(英文) Relationship between objective evaluation about degree of symptoms and behavioral characteristics of menopausal women and their health literacy

研究代表者

城賀本 晶子 (Jogamoto, Akiko)

愛媛大学・医学系研究科・講師

研究者番号：90512145

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：更年期特有のヘルスリテラシーは、女性が症状を緩和して生活の質を改善するための行動をとる要因となり、看護職者はその力を支援する必要がある。そのため、文献検討により更年期女性のヘルスリテラシーに関する基本的事項を明らかにするとともに更年期女性に必要なヘルスリテラシーの要素について考察を行った。

また、大学生の更年期に関する知識とヘルスリテラシーについて明らかにしようと試みた。その結果、大学で更年期について学んだ学生は、更年期についてある程度の知識を有しており、更年期の知識が高い学生は、ヘルスリテラシーの程度も高い傾向にあることが推測された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

更年期は老年期に結び付く重要な時期であり、不快な症状を呈しやすい。このような時期の女性はヘルスリテラシーを高める必要があるが、更年期に関するヘルスリテラシーが低い更年期女性が多いことが指摘されている。そのため、更年期になる前から、その症状や対処法について知識を得ておくことも重要と考える。大学生の両親はほとんどが更年期に該当しており、大学生が更年期について正しい知識を持ち、両親の健康状態を推測することは、両親への支援につながる可能性がある。また、その知識を正確に理解、評価、活用するヘルスリテラシーの力を持っているならば、将来、自分が更年期になった際、適切に対処することが可能になると考える。

研究成果の概要(英文)： Menopause-specific health literacy is essential for women to take action to alleviate symptoms and improve their quality of life, and nurses need to support this ability. I conducted to clarify basic factors about what kind of health literacy is necessary for menopausal women through literature review.

Furthermore, I also conducted a survey using a questionnaire to clarify the relationship between university students' knowledge of menopause and health literacy. The results suggested that students who have learned menopause at university have a certain level of knowledge about menopause. It was revealed that students with the knowledge about menopause had high degree of the health literacy.

研究分野：基盤看護学

キーワード：更年期 ヘルスリテラシー 知識

1. 研究開始当初の背景

高学歴化や晩婚化、結婚・出産後の就業率の増加など、女性を取り巻く社会環境や家庭環境は大きく変化してきた。多様な生き方を選べるようになった女性の健康面を考えると、女性固有の生理現象である月経は、女性の一生を通じて極めて重要な役割を演じている。なかでも、加齢に伴い、いつかは迎える閉経は女性の心身に劇的な変化をもたらす、生活の質にも重大な影響を及ぼす。閉経周辺期から出現する不快な自覚症状は不定愁訴あるいは更年期障害と総称され、ホルモン補充療法や補充代替医療などに救いを求める更年期女性も少なくない。ただ、そのような症状改善を期待して行う行動や意思決定が、効果的に行われているかについては個人差があり、健康情報を入手、理解、評価、活用する能力であるヘルスリテラシーの力を正しく持つことが重要となる。

ヘルスリテラシーは、認知的および社会的スキルを意味し、良好な健康を維持・促進するために必要な情報へアクセスし、理解し、活用するための個人の意欲や能力として知られている。2018年に日本医療政策機構が行った働く女性の健康増進調査によると、ヘルスリテラシーの高さが、仕事のパフォーマンスの高さに関連していることやヘルスリテラシーの高い人は、女性特有の症状があった時に対処できる割合が高いことなどが報告されている。人々が生活する中で、自らが求める健康情報にアクセスし、病気の予防や対処、医療機関の検索等に役立てられることは、自らの健康を維持・増進するためだけでなく、快適で安心した生活を送るための基盤ともなる。更年期特有のヘルスリテラシーは、女性が症状を緩和して生活の質を改善するための行動をとる鍵であり、看護職者はその力を支援する必要がある。しかし、更年期特有のヘルスリテラシーについては定義されていない。また、一般に開発されたヘルスリテラシー尺度を調査した結果、現在の尺度では、対象者が更年期女性でないものや、尺度項目が少なく、幅広い症状を呈する更年期女性のヘルスリテラシーを明らかにするには不十分なものも認められた。そのため、一般成人ではなく、更年期女性に限定した、そのヘルスリテラシーを明らかにし、不定愁訴や行動特性と如何なる関連があるのかを探索する必要があると考えた。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、まず、更年期女性のヘルスリテラシーについて、文献検討によりその定義づけを行うとともに更年期女性に必要なヘルスリテラシーの要素を明らかにすることを目的とした。

(2) 若年者の更年期に対する知識や関心について明らかにし、更年期に関する教育の在り方やヘルスリテラシー向上のための方策について考察することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 更年期女性のヘルスリテラシーについて、その定義づけとヘルスリテラシーの要素を明らかにするために、更年期症状や対処法などについて述べられた論文に関して文献検討を行った。更年期の症状には欧米と日本人では異なる側面があることから、今回は日本女性のみを対象とした文献を検索した。検索データベースとして、医中誌 WEB、CINAHL(Cumulative Index to Nursing and Allied Health Literature) EBSCO 版、Google scholar を用いた。検索に用いたキーワードは、「更年期 ヘルスリテラシー」と「更年期 対処 健康」とし、情報の信頼性確保のため原著論文のみを選択した。さらにハンドリサーチを行い、計 27 文献を対象とした。

(2) 四年制大学の医学部看護学科に所属する学生を対象に質問紙を用いた調査を実施し、大学生の更年期に関する知識とヘルスリテラシーについて明らかにしようと試みた。調査では、対象者の属性、更年期に関する知識、ヘルスリテラシーに関する質問紙を使用した。

4. 研究成果

(1) 文献検討を行った結果、【更年期の情報を収集できる能力】、【更年期の情報を理解できる能力】、【更年期の知識を蓄える能力】、【更年期について知ろうとする意欲】、【更年期について人に相談できる能力】、【更年期の情報を活用する能力】、【更年期の情報を選択する能力】の 7 つが更年期女性に必要なヘルスリテラシーの要素であると考えた。今後、先行研究から更年期特有のヘルスリテラシー尺度を作成し、更年期女性のヘルスリテラシーの程度を明らかにすることによって、更年期症状を有している女性が受診行動に至っていない理由や女性が持っている更年期に関する知識や能力を見出す一助となり、今後の更年期女性のヘルスリテラシーを高めるための支援方法を考えるきっかけにも成り得ると考えた。文献検討により導き出した更年期女性のヘルスリテラシーの 7 つの要素については、その妥当性を検証することが今後の課題であるが、更年期のヘルスリテラシーとしては、更年期について知ろうとする意欲を持ち、更年期の情報を収集し、理解し、知識として蓄えたり、更年期の情報を選択し、活用し、人に相談したりできることが大切であると考えた。

(2) 大学で更年期について学んだ学生は、更年期についてある程度の知識を有しており、血管・自律神経・精神症状に関する知識は高く、泌尿生殖器の症状に関する知識は低い傾向であった。さらに更年期の知識が高い学生は、ヘルスリテラシーの程度も高い傾向にあることが推測された。更年期とは閉経の前後5年間とされ、この時期には、更年期症状と呼ばれる不快な症状が出現することが知られている(日本産婦人科学会、2018)。男女ともに更年期になる前から、その症状や対処法について知識を得ておくことは重要である。しかし、厚生労働省の意識調査(2022)では、更年期について「知らない」と回答した者が男女ともに20歳代で最も高いことが報告されている。大学生の両親はほとんどが更年期に該当しており、大学生が更年期について正しい知識を持ち、両親の健康状態を推測することは、両親への支援につながる可能性がある。また、健康情報を入手した後、それを正確に理解、評価、活用するヘルスリテラシーの力を持っているとすれば、将来、自分が更年期に差し掛かった時、適切に対処することが可能になると考える。

<引用文献>

日本医療政策機構. (2018). 働く女性の健康増進調査.

<https://hgpi.org/en/wp-content/uploads/sites/2/e5f333535ba1c799758287753d7229c9.pdf> (2024.6.11)

日本産婦人科学会. (2018). 更年期障害.

https://www.jsog.or.jp/modules/diseases/index.php?content_id=14 (2024.6.11)

厚生労働省. (2022). 更年期症状・障害に関する意識調査 基本集計結果.

<https://www.mhlw.go.jp/content/000969166.pdf> (2024.6.11)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Kinoshita Tetsu, Maruyama Koutatsu, Suyama Keiko, Nishijima Mariko, Akamatsu Kimiko, Jogamoto Akiko, Katakami Kikumi, Saito Isao	4. 巻 21
2. 論文標題 Consumption of OLL1073R-1 yogurt improves psychological quality of life in women healthcare workers: secondary analysis of a randomized controlled trial	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Gastroenterology	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12876-021-01793-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Jing Su, Aiko Jogamoto, Hroyuki Yoshimura, Lujun Yang	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 Menopausal Symptoms among Chinese and Japanese Women: Differences and Similarities	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Menopause	6. 最初と最後の頁 73-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1097/GME.0000000000001874	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 城賀本晶子、桧垣智菜美、野中麻衣、村上光、安部抄太、田中勲太	4. 巻 5
2. 論文標題 男性の更年期症状に対する4年制大学看護学生の理解の現状	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 愛媛大学看護研究雑誌	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 上田裕子、乗松貞子、藤村一美、城賀本晶子
2. 発表標題 大学病院に勤務する新人看護師のグリット（やり抜く力）とリアリティショックの関連
3. 学会等名 日本看護研究学会第48回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 城賀本晶子, 安部抄太, 田中勘太, 野中麻衣, 桧垣智菜美, 村上光
2. 発表標題 大学生の更年期に関する知識とヘルスリテラシー
3. 学会等名 第24回日本健康支援学会年次学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 丸山広達、木下徹、 狩野宏、 牧野聖也、 陶山啓子、 西嶋真理子、 赤松公子、 城賀本晶子、 片上貴久美、 斉藤功
2. 発表標題 OLL1073R-1 乳酸菌で発酵したヨーグルトの摂取による、睡眠の改善および消化器症状への影響を介した精神系QOLへの効果
3. 学会等名 日本農芸化学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 城賀本晶子、桧垣智菜美、野中麻衣、村上光、安部抄太、田中勘太
2. 発表標題 男性の更年期症状に関する大学生の認識
3. 学会等名 第25回日本健康支援学会年次学術大会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	羽藤 典子 (Hato Noriko) (50626489)	人間環境大学・松山看護学部・教授 (33936)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------